

## 素案(令和2年7月5日諮問)からの主な修正内容

### 1 検討経過等

- 令和2年 7月 5日 第1回千葉県史跡保存整備委員会  
新博物館基本計画(素案)の諮問
- 11月11日 第2回千葉県史跡保存整備委員会  
その他報告事項として、進捗を報告
- 3月 16日 第3回千葉県史跡保存整備委員会  
新博物館基本計画(中間取りまとめ)案の審議

### 2 諮問時(7月5日)以降の主な見直し・修正内容

#### (1)施設の基本方針

- ・「背景と本計画の位置づけ」について、価値・魅力に関する記載を追記するとともに、課題を整理しました。
- ・新博物館ゾーンのテーマを「貝塚を中心とする縄文文化の研究」に修正しました。併せて、計画書中の「縄文文化」を文脈に併せて「縄文時代の社会と文化」などの表現に改めました。
- ・SDGsに関する記載について、169のターゲットとの整合性を図るなど、再検討を行いました。縄文＝安定の表現も見直しました。

#### (2)事業活動計画

- ・事業活動計画の全体像と個々の事業活動の関係性を見直しました。
- ・「調査・研究」の研究テーマの記載を見直しました。
- ・「収集・保存」を「収集・保存・活用」に修正し、資料の活用に関する記載を追加しました。
- ・「展示」について、史跡での野外展示に関する記載を追加しました。
- ・「教育・普及」に縄文時代や貝塚への興味喚起を目的とした縄文秋まつりなどのイベントを含めることとしました。
- ・「集客・交流」事業を見直し、「史跡ガイドンス」、「利用者サービス」、「広報・集客連携」に区分しました。
- ・従来記載していた「集客」の内容は、博物館の利用者サービスなど博物館が本来行うべき事業であったため、新博物館が行う「集客」を新たに定義し直し、集客イベントの誘致や近隣の観光施設等との連携など「集客連携」を博物館の事業活動としました。また、ターゲットを絞った的確な広報活動も集客と密接に関わることから、「広報・集客連携」としました。
- ・「交流」はあらゆる事業活動に関わる事項であることから、それぞれの事業活動のなかに分けて含めることとしました。
- ・新博物館で何ができるのかわかりやすく説明するため、「利用者の見学・体験の流れ」の項目を新たに追加しました。

### (3) 施設計画

- ・「施設整備の基本的な考え方」について、ユニバーサルデザインや災害対応、地域交流に関する記載を追記しました。
- ・「諸室の構成」および「機能構成」の記載内容について、事業活動計画と整合を図りました。

### (4) 展示計画

- ・各展示について、ねらいと特徴を明確に示すため、記載を追加しました。
- ・各展示の空間イメージ図を追加・修正しました。
- ・探求型展示「加曽利ラボ」の展示テーマ案を見直しました。
- ・没入型展示「縄文体験空間」について、映像主体の展示計画に変更しました。当初、原寸大模型を用いた空間の再現を計画していましたが、映像主体の展示構成とします。
- ・対話型展示「未来ラウンジ」について、事業活動内容を見直しました。活動アーカイブス「私たちの貝塚」の展示を取止め、「縄文トークテーブル」の活動メニューの一つとします。

### (5) 管理運営計画

- ・組織体制のイメージに新たに「保存研究担当」を追加しました。
- ・令和3年度に整備方式や運営手法について追加検討を行います。その検討結果を反映させて修正の上、策定・公表します。

素案(令和2年7月5日諮問)からの主な修正内容

No.1

章	ページ (現状案)	ページ (素案時)	行数等 (現状案)	修正内容
I 施設の 基本方針	1~3	1	—	加曽利貝塚の価値や魅力等に関する記載を新たに加えるとともに、内容を整理し、加曽利貝塚と加曽利貝塚博物館それぞれの課題を整理しました。
	4	2	—	市の基本構想や基本計画、特別史跡加曽利貝塚ランドデザイン、各種関連計画との関係を新たに加えました。
	5	2	—	ランドデザインで定義した周辺エリアの範囲を拡大し、サテライトや周辺の文化施設、商業施設も含め、連携を図ることとしました。記載を加えるとともにサテライトを示した図を新たに加えました。
	8	5	—	新博物館とコアエリア、周辺エリアの関係性について、動線だけでなく、空間的な関係性を示す図を新たに追加しました(右上)。
	8	5	—	それぞれのエリアで何を行うのか、各エリアの役割を明記しました。
	8	5	周辺エリアの丸枠内	周辺エリアの具体的事例に、周辺の史跡を追記しました。
	9	6	6~7	新博物館ゾーンのテーマについて、「縄文文化や貝塚の研究」を「貝塚を中心とする縄文文化の研究」に表現を修正しました。 以下、計画書全体で同様の修正を行いました。
	9	6	11	文中の「縄文文化」を「縄文時代の社会と文化」に修正しました。 以下、計画書全体を見直し、タイトルなどの場合は「縄文文化」をそのまま使用していますが、文中は原則として「縄文時代の社会と文化」に修正しました。
	9	6	20	「SDGs」の「Development」の訳語について、「開発」の表記を削除しました。 以下、計画書全体で同様の修正を行いました。
	10	7	11~12	「加曽利貝塚への様々な興味・関心・幅広いニーズへの対応」の中に、周辺エリアとの連携による新たな来館者の掘り起こしについて追記しました。
	10	7	14~20	「体験の重視」の中に、特別史跡との連携、実験考古学的な研究成果に裏打ちされた縄文体験プログラムとすることを明記しました。
	11	7	6~7	「多様な立場の人々」の例を具体的に追記しました。
11	7	表	「学校団体」に「大学」を追記しました。	

章	ページ (現状案)	ページ (素案時)	行数等 (現状案)	修正内容
I 施設の 基本方針	12	8	9~10	新博物館の取組みとして、「SDGsに沿った博物館整備・運営の推進」、 「SDGsの理念に基づき、その達成に寄与する活動の展開」の2つを明記しま した。
	12	8	11	素案8ページに記載していた内容について、「ア SDGsに照らした縄文文 化や加曽利貝塚の意義」のタイトルを追記しました。
	12	8	14	「②縄文文化の適合性」のタイトルを「(ア)縄文社会の持続可能性」に修正 しました。
	12	8	15~29	持続可能性について記載しつつ、環境変動や社会が不安定な時期もあつ たことを追記した。
	12	8	30	「①保存活用の歴史がもつ適合性」のタイトルを「(イ)文化財保護と開発が 調和した持続可能な社会の象徴としての加曽利貝塚」に修正しました。
	13	9	5	「■新博物館整備における目標設定」を「イ 博物館の取組みと関連する SDGsのゴール」に修正しました。
	13~14	9~10	表	各列のタイトルを「関連するSDGsのゴール」、「博物館の取組み」に修正し ました。
	13~14	9~10	表	表の列の並びを入れ替え、項目/博物館の取組み/関連するSDGsのゴール の順に修正しました。
	13~14	9~10	表	「博物館の取組み」の記載内容を全体的に見直し、縄文時代の社会や文化 に関する解釈が含まれている記載を削除しました。 また、SDGsの169のターゲットの記載との整合性をチェックし、修正しま した。
	13	9	表	「収集・保存/調査・研究」について、関連するSDGsのゴールを見直し、 「17パートナーシップで目標を達成しよう」に変更しました。
	13~14	9~10	表	項目の「学習支援」、「集客・交流」を「教育・普及」に修正しました。
	14	10	表	「関連するSDGsのゴール」について、「施設整備」に「17パートナーシップ で目標を達成しよう」、「管理運営」に「16平和と公正を全ての人に」を追加 しました。
15	11	1	タイトルを「感染症対策を踏まえた事業活動の展開」に修正しました。	

章	ページ (現状案)	ページ (素案時)	行数等 (現状案)	修正内容
Ⅱ 事業活動計画	17	13	—	新博物館の中核をなす事業活動として、「調査・研究」、「収集・保存」、「展示」、「教育・普及」の4つを位置づけました。
	17	13	—	「調査・研究成果を基盤に展開する事業活動」から「貝塚を中心とする縄文文化の研究」へのフィードバックを表現するため、矢印を双方向に修正しました。
	17	13	—	「集客・交流」は全体像への位置づけと内容を見直し、「史跡ガイドランス」、「利用者サービス」、「広報・集客連携」に分け、「博物館と史跡での体験を充実するための事業活動」に位置づけました。
	18	14	—	「新博物館の事業活動のテーマ」に「生きている縄文」のフレーズを追記するとともに、説明内容を文章化しました。
	19	15	4～16	基本方針について、文章を追記し、新博物館の特色を強調しました。
	19・20	15	29～2	研究テーマの記載を見直し、文章化しました。
	20	15	3	タイトルを「調査・研究型博物館としての推進体制」に修正しました。
	20	15	4	「学芸職員」を「学芸員」に修正しました。 以下、計画書全体で同様の修正を行いました。
	20	16	15	「収集・保存」を「収集・保存・活用」に修正しました。
	21	16	7	新たに「エ 資料の活用」を追記しました。
	22	17	3～6	史跡も活用して展示を行うことを追記しました。
	22	17	7	タイトルを「館内での展示内容」に修正しました。
	22	17	12～13	館内の常設展示で、屋外では実施できない体験プログラムを行うことを追記しました。

章	ページ (現状案)	ページ (素案時)	行数等 (現状案)	修正内容
Ⅱ 事業 活動 計画	23	17	表	3つの展示の名称を「探求型展示(加曾利ラボ)」、「没入型展示(縄文体験空間)」、「対話型展示(未来ラウンジ)」に修正しました。併せて説明内容を見直し、修正・加筆しました。
	23	17	3	「考古学者」を「研究者」に修正しました。 以下、計画書全体で同様の修正を行いました。
	24	18	—	「(エ)史跡ガイダンス展示」を26ページの史跡ガイダンスへ移しました。
	24	18	11~24	新たに「ウ館外での展開内容」を追加し、史跡での野外展示等に関する記載を加えました。
	25	18~19	10~13	縄文まつりなど「集客・交流」に位置付けていたイベントを縄文時代や貝塚への興味喚起を目的としたものとし、「教育・普及」に位置づけました。
	26~28	19~21	—	「(5)集客・交流」を「(5)史跡ガイダンス」、「(6)利用者サービス」、「(7)広報・集客連携」に振り分けるとともに、記載内容を見直しました。
	29・30	—	—	「4利用者の見学・体験の流れ」を新たに追加し、利用目的や興味に応じた動線を示しました。
	31	22	19	「(2)史跡及び関連施設との連携」について、社会教育施設との連携を追記しました。
Ⅲ 施設 計画	33	23	9	「(2)博物館としての機能拡充」について、ユニバーサルデザインに配慮した計画とすることを追記しました。
	33	23	15	「(2)博物館としての機能拡充」について、災害に強い施設とすることを追記しました。
	33	23	20~33	素案で「(4)集客施設としての機能拡充」として記載していた内容が博物館の機能拡充であることから、「(3)出合いや地域交流の場としての機能拡充」に含めました。
	38	27	15	「ウ博物館における防災対策」を追記しました。
	39~42	28~31	—	「(1)諸室機能」の部門、室名を「Ⅱ事業活動計画」に併せて修正しました。

章	ページ (現状案)	ページ (素案時)	行数等 (現状案)	修正内容
	43	32	—	機能構成図を「(1)諸室機能」に併せて修正しました。
IV 展示計画	45	33	—	章のタイトルを「展示計画」に修正しました。
	45	—	18～22	「(3)特別史跡内における体験との連携・機能分担を重視」を追記しました。
	46	34	図	「探求型展示」、「没入型展示」、「対話型展示」それぞれの枠内の説明を加筆・修正しました。
	47	35	—	「探求型展示」のねらいと特徴についての説明を加筆・修正しました。
	48	—	—	「探求型展示」の空間イメージ図を追加しました。
	49	35	—	「展示テーマ案」を見直し、加筆・修正しました。
	50	36	図	「アクティブラボ」のイメージ図を見直し、空間イメージ図を削除しました。
	51	37	図	「オープンラボ」のイメージ図を見直し、修正しました。
	51	—	図	「加曽利ラボ」の全体構成を分かりやすく説明するため、全体構成案のイメージ図を追加しました。
	52	38	—	「没入型展示」のねらいと特徴についての説明を加筆・修正しました。
	52	38	—	「没入型展示」の展示構成について、実物大模型を用いた空間再現から大型映像を用いた空間演出に変更しました。
	53	38	—	「没入型展示」の空間イメージ図を映像による空間演出主体のものに修正しました。

章	ページ (現状案)	ページ (素案時)	行数等 (現状案)	修正内容
IV 展示計画	54	41	—	「没入型展示」の体験イメージを映像主体のものに修正しました。
	55～57	39～41	—	「没入型展示」を映像主体の展示構成に変更することに合わせた記載に修正しました。
	58	42	—	「対話型展示」のねらいと特徴についての説明を加筆・修正しました。
	59	42	図	「対話型展示」の空間イメージ図を見直し、修正しました。
	60	44	16	素案の「(イ)活動アーカイブス「私たちの貝塚」」を展示構成から除外し、活動メニューの一つとして追記しました。
	61	44	—	素案で「(3)史跡ガイダンス展示」として記載していた内容を「事業活動計画」の「史跡ガイダンス」へ移動しました。
V 管理運営計画	63	47	3～10	「(1)調査・研究体制の強化」について、調査・研究を中心とした組織体制や連携の拡充を加筆・修正しました。
	63	47	19～26	「(3)活発な博物館活動を持続的に展開するための工夫」について、公開承認施設の基準に適合する施設を目指すこと等を追記しました。
	65	49	19～26	タイトルを「3 組織体制のイメージ」に修正しました。
	65	49	図	「事業部門」を「企画運営部門」に、「広報担当」を「広報・集客連携担当」に修正し、新たに「保存研究担当」を加えました。
	65	49	図	「展示担当」は「企画運営部門」、「研究部門」の両方にまたがるように位置づけを修正しました。
	66	50	図	連携先として「社会教育施設」を追加しました。